

## 産業社会と企業 ⑨ 市場経済の発展と失業・貧困

### 【テーマ】

- ①市場経済が富の増大と同時に失業や貧困といった問題を生み出してきたのはなぜか？
- ②失業・貧困は市場経済の下でどのように解決が図られてきたのか？
- ③今日先進国で再び失業が増えているのはなぜか？

### 【1】市場経済の発展と失業・貧困

#### (1) 失業発生 の必然性

#### (2) 絶対的貧困と相対的貧困

絶対的貧困：1日の所得が1米ドル以下に満たない国民の割合。

相対的貧困：等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯員数の平方根で割った値）が、全国民の等価可処分所得の中央値の半分に満たない国民の割合

※2000年のデータ

メキシコ：20.3%、アメリカ：17.0%、トルコ：15.9%、アイルランド：15.4%、日本15.3%

イギリス11.4%、OECD平均：10.2%

ドイツ：9.8%、フランス：7.0%、スウェーデン：5.3%

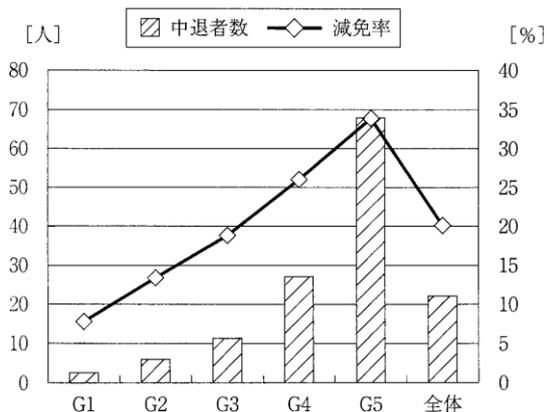


図12 大阪府立高校の中退率と減免率

2007年度の大阪府教育委員会の高校教育指導課及び財務課の資料から作成

## 【2】解決策①

(1) 1910～20年代における2つのインパクト

### (2) 宥和政策

1919 ILO 設置

<ドイツ>

1918 シュティンネス=レギーン協定

1919 ワイマール憲法

<アメリカ>

1935 社会保障法/ワグナー法

<日本>

1945-47 労働三法

1958 国民健康保険法

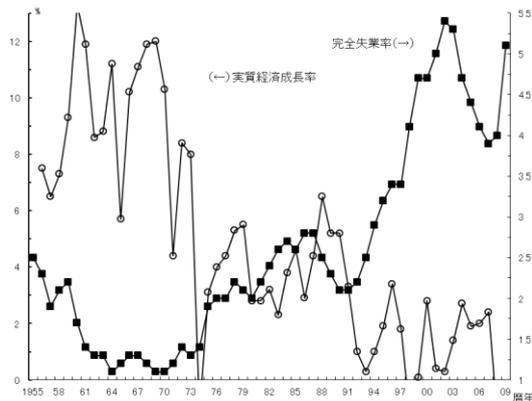
### (3) 財政政策

1929 世界恐慌

1931 高橋是清：高橋財政

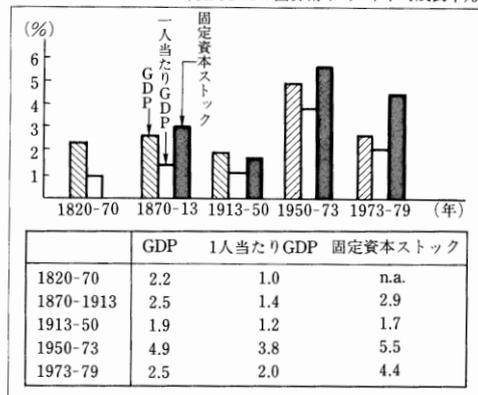
1933 フランクリン・ローズヴェルト：ニューディール政策

1936 ケインズ『雇用、利子、および貨幣の一般理論』



図表4 先進国成長の時期別比較(1)

(OECD16カ国算術平均、年平均成長率%)



(資料) A. Maddison, *Phases of Capitalist Development*, 1982

第2-6表 産業別投資単位当り雇用吸収力  
(設備投資1億円当り雇用人員)

産業分類	29～32年実績
食料品	102.2
紡績	49.3
紙類似品	21.6
化学	9.8
第一次金属	21.6
機械	175.0
電気機械	140.1
輸送機械	79.9
製造業総合	66.1

【3】解決策②

(1) 耐久消費財生産の特徴

(2) フォード・システム

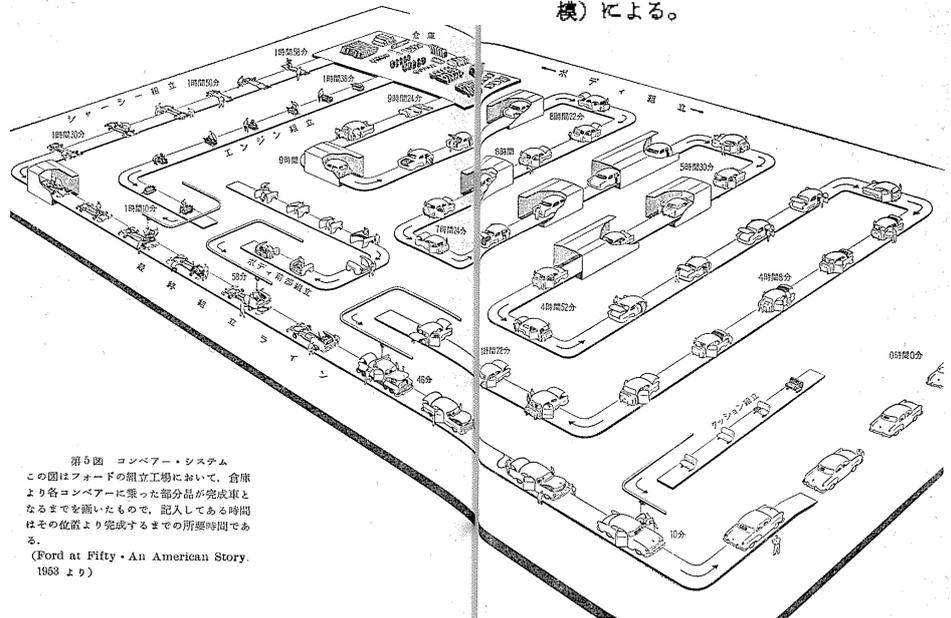
T型フォードの価格

(1908) \$800

(1916) \$360

(1926) \$50

(備考) 1. 従業員数増加を示す。  
有形固定資産増加額  
2. 「工業統計表」(30人以上の規模)による。



第5図 コンベアー・システム  
この図はフォードの組立工場において、倉庫より各コンベアーに乗った部分品が完成車となるまでを画いたもので、記入してある時間はその位置より完成するまでの所要時間である。  
(Ford at Fifty・An American Story, 1953より)

【4】まとめ：高度成長・失業縮小のメカニズムとその崩壊

(1) 高度成長・失業縮小のメカニズム

(2) 高度成長・失業縮小のメカニズムの行き詰まり

### ※関連文献

①山田鋭夫『レギュレーション理論：経済学の再生』講談社現代新書（1993）  
・高度成長のメカニズムとその終焉要因が明快に論じられている。まず最初に読むべき経済書のひとつ

②吉川洋『高度成長：日本を変えた6000日』中公文庫、(2012)  
・なぜ戦後日本ではとりわけ経済成長が著しかったのか？ 世帯数の増加という要因に注目して、説得的に論じたもの。成長がもたらした負の側面についても目配りされており、「経済成長は幸福か」を考える材料を提供してくれる。

③山口義行・小西一雄『ポスト不況の日本経済』講談社現代新書（1994）  
・高度成長のメカニズムの終焉要因が詳細に論じられている。約20年前の書籍だが、今日でも一読の価値あり

#### 【財政・金融政策】

④伊東光晴『ケインズ』岩波新書（1962）

⑤林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書（1988）

⑥鈴木隆『高橋是清と井上準之助—インフレか、デフレか』文春新書（2012）  
・④はケインズについてのスタンダードな入門書で、これも最初に読むべき経済書のひとつ。50年前の著作だが今でも古びない。なお、『一般理論』の翻訳は岩波文庫・講談社学術文庫など何種類もあるので、自身が読みやすいと思ったものを選ぶと良い。⑤は世界恐慌とニューディール政策についての最も分かりやすい入門書の一つ。ローズヴェルトの人柄も伝わってくる。「日本のケインズ」高橋是清については⑥。自由放任的な経済政策を採った井上と対比しつつ、実績をまとめている。

#### 【大量生産・大量消費社会の形成】

⑦米倉誠一郎『経営革命の構造』岩波新書（1999）

・フォードなど大衆消費社会をもたらした創意工夫については先ずこれを参照。トヨタについても詳しい。

#### 【貧困問題】

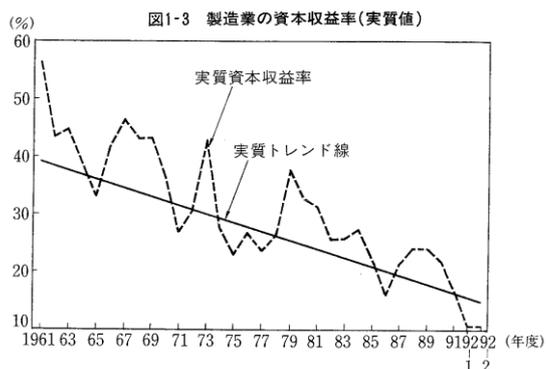
⑧エンゲルス『イギリスにおける労働社会階級の状態』（1845）岩波文庫または新日本出版社

⑨岩田正美『現代の貧困』ちくま新書（2007）

・⑧は市場経済誕生もないイギリスで深刻化する貧困問題と労働運動の実相を生き活きと描写。⑨は貧困問題は戦後一貫して日本に存在していたという観点から、現状をまとめたもの。

⑩横田増生『潜入ルポ アマゾン・ドット・コム』朝日文庫（2010）

・IT社会の効率的なサービスがどれだけ多くの単純労働に支えられているかを教えてくれる。



注一) 資本収益率=営業利益額/有形固定資産額(建設仮勘定を除く、期首期末平均簿価)  
2) 92-1、92-2は92年度第1四半期、同第2四半期をそれぞれ年率換算したもの。  
3) 実質値デフレターはGNPデフレターおよび民間企業設備デフレターを使用。  
資料一「法人企業統計季報」、『国民経済計算年報』  
出所一図1-1に同じ。